



Cisco Unified IP Phone の設定値の設定

Cisco Unified IP Phone にはネットワークやデバイスの設定が数多くあるため、ユーザが電話機の利用を開始する前に、システム管理者がその設定作業を終えておく必要があります。これらの設定値には、電話機のメニューからアクセスして変更できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified IP Phone の設定メニュー \(P.4-2\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-6\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-8\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)

Cisco Unified IP Phone の設定メニュー

Cisco Unified IP Phone 7961G/7961G-GE および 7941G/7941G-GE には、次の設定メニューがあります。

- [ネットワークの設定] メニュー：さまざまなネットワークを表示、設定できるオプションがあります。詳細については、[P.4-8](#) の「[ネットワークの設定メニュー](#)」を参照してください。
- [デバイス設定] メニュー：ネットワークに関連しないさまざまな設定を表示するサブメニューにアクセスできます。詳細については、[P.4-17](#) の「[デバイス設定メニュー](#)」を参照してください。

[ネットワークの設定] メニューのオプション設定を変更するには、その前に編集するオプションロックを解除する必要があります。手順については、[P.4-4](#) の「[オプションのロックとロック解除](#)」を参照してください。

オプション設定の編集または変更に使用できるキーについては、[P.4-5](#) の「[値の編集](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の管理ページで、[電話の設定 (Phone Configuration)] ページにある **Settings Access** フィールドを使用することにより、電話機のユーザが電話機の設定にアクセスできるかどうかを制御できます。詳細については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [オプションのロックとロック解除 \(P.4-4\)](#)
- [値の編集 \(P.4-5\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-6\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-8\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)

設定メニューの表示

設定メニューを表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 設定ボタンを押して、[設定] メニューにアクセスします。
- ステップ 2** [ネットワークの設定] メニューまたは [デバイス設定] メニューに表示される次の処理のいずれかを実行します。
 - ナビゲーション ボタンを使用してメニューを選択し、[選択] ソフトキーを押します。
 - 電話機のキーパッドを使用して、メニューに対応する数字を入力します。
- ステップ 3** [デバイス設定] メニューを表示した場合は、[ステップ 2](#) に示されているいずれかの操作を行ってサブメニューを表示します。
- ステップ 4** メニューを終了するには、[終了] ソフトキーを押します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ページを使用することにより、電話機から [設定] メニューやこのメニューのオプションにアクセスできるかどうかを制御できます。Settings Access フィールドに設定できる値は、次のとおりです。

- **有効** : [設定] メニューへのアクセスを許可します。
- **無効** : [設定] メニューへのアクセスを禁止します。
- **非許可** : [ユーザ設定] メニューへのアクセスを許可し、音量の設定変更の保存を許可します。[設定] メニューの他のオプションへのアクセスは禁止します。

[設定] メニューのオプションにアクセスできない場合は、Settings Access フィールドを確認してください。詳細については、『*Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

関連項目

- オプションのロックとロック解除 (P.4-4)
- 値の編集 (P.4-5)
- 電話機から設定可能なオプションの概要 (P.4-6)
- ネットワークの設定メニュー (P.4-8)
- デバイス設定メニュー (P.4-17)

オプションのロックとロック解除

電話機から変更できる設定オプションは、デフォルトでロックされています。これは、ユーザが電話機の操作に影響を与える変更を行えないようにするためです。システム管理者は、設定オプションを変更する前に、ロックを解除しておく必要があります。

オプションが変更できなくなっている場合は、**ロックされた鍵のアイコン**  が設定メニューに表示されます。オプションのロックが解除され、変更できるようになっている場合、これらのメニューには**ロックを解除された鍵のアイコン**  が表示されます。

オプションをロックまたはロック解除するには ******* を押します。この操作を行うことにより、オプションがロックされるか、ロックが解除されます（直前の状態によりどちらかになります）。電話機にパスワードが設定されている場合は、******* を押した後にパスワードを入力する必要があります。

変更が終わったら、必ずオプションをロックします。



注意

******* を押してオプションをロック解除した直後に、再び ******* を押してオプションをロックしないでください。電話機はこのような連続操作を ******* と解釈するため、電話機がリセットされます。オプションをロック解除した後に再びロックする場合は、少なくとも 10 秒間待ってから、******* を押すようにしてください。

関連項目

- 設定メニューの表示 (P.4-3)
- 値の編集 (P.4-5)

- 電話機から設定可能なオプションの概要 (P.4-6)
- ネットワークの設定メニュー (P.4-8)
- デバイス設定メニュー (P.4-17)

値の編集

オプション設定の値を編集するときは、次のガイドラインに従ってください。

- 数字や文字を入力するには、キーパッドのキーを使用する。
- キーパッドを使用して文字を入力するには、対応する番号キーを使用する。番号キーを1回または複数回押すと、特定の文字が表示されます。たとえば、「a」を入力するには、番号キーの2を1回押します。「b」を入力するには2回、「c」を入力するには3回すばやく押します。少し間を置くと、カーソルが次の文字を入力する位置に自動的に移動します。
- (たとえばIPアドレスなどで) ピリオドを入力するには、[.] (ピリオド) ソフトキーを押すか、キーパッドの [*] を押す。
- キーを間違えて押した場合は、<< ソフトキーを押す。このソフトキーは、カーソルの左にある文字を削除します。
- 変更内容を保存しない場合は、[保存] ソフトキーを押す前に、[キャンセル] ソフトキーを押す。



(注) Cisco Unified IP Phone では、必要に応じて、オプション設定のリセットや復元に使用できる方法がいくつか用意されています。詳細については、[P.9-18 の「Cisco Unified IP Phone のリセットまたは復元」](#)を参照してください。

関連項目

- 設定メニューの表示 (P.4-3)
- オプションのロックとロック解除 (P.4-4)
- 電話機から設定可能なオプションの概要 (P.4-6)
- ネットワークの設定メニュー (P.4-8)
- デバイス設定メニュー (P.4-17)

電話機から設定可能なオプションの概要

電話機で変更できる設定は、表 4-1 で示すとおり、いくつかのカテゴリに分かれています。各設定の詳細な説明や変更方法については、P.4-8 の「ネットワークの設定メニュー」を参照してください。



(注) [ネットワークの設定] メニューと [デバイス設定] メニューには、表示専用のオプションもあれば、Cisco Unified CallManager を使用して設定できるオプションもあります。これらのオプションについては、P.4-8 の「ネットワークの設定メニュー」または P.4-17 の「デバイス設定メニュー」でも説明されています。

表 4-1 Cisco Unified IP Phone から設定可能なオプション

| カテゴリ | 説明 | [ネットワークの設定] メニューのオプション |
|---------|---|------------------------|
| DHCP 設定 | DHCP (ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル) を使用している場合、ネットワークにデバイスを接続すると、デバイスの IP アドレスが自動的に割り当てられます。Cisco Unified IP Phone では、DHCP がデフォルトで有効になっています。 | DHCP を使う |
| | | DHCP アドレスを解放する |
| IP 設定 | ネットワークで DHCP を使用しない場合は、IP 設定を手動で行います。 | ドメイン名 |
| | | IP アドレス |
| | | サブネット マスク |
| | | デフォルト ルータ 1 ~ 5 |
| TFTP 設定 | 電話機から TFTP サーバへの送信に DHCP を使用しない場合は、TFTP サーバを手動で割り当てる必要があります。また、DHCP で割り当てられたものを使用しないで、代替 TFTP サーバを割り当てることもできます。 | TFTP サーバ 1 |
| | | 代替 TFTP TFTP サーバ 2 |
| VLAN 設定 | 電話機で使用される管理 VLAN を変更できます。 | Admin. VLAN ID |

表 4-1 Cisco Unified IP Phone から設定可能なオプション (続き)

| カテゴリ | 説明 | [ネットワークの設定] メニューのオプション |
|---------|--|------------------------|
| ポート設定 | ネットワーク ポートやアクセス ポートの速度と全二重 / 半二重の設定を変更できます。 | SW ポート設定 PC ポート設定 |
| PC VLAN | 電話機が、シスコ製以外のスイッチと良好に連携できるようにします。電話機のアクセス ポートから PC に伝送されるパケットの 802.1P/Q タグを削除します。 | PC VLAN |

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [オプションのロックとロック解除 \(P.4-4\)](#)
- [値の編集 \(P.4-5\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-8\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)

ネットワークの設定メニュー

[ネットワークの設定] メニューには、さまざまなネットワーク設定値を表示および変更するためのオプションがあります。表 4-2 では、これらのオプションとその変更方法（可能な場合）について説明しています。

[ネットワークの設定] メニューの表示方法については、P.4-3 の「設定メニューの表示」を参照してください。

このメニューのオプションを変更する前に、オプションのロックを解除しておく必要があります。詳細については、P.4-4 の「オプションのロックとロック解除」を参照してください。オプションのロックが解除されている場合に限り、ネットワークの設定オプションを変更するための [編集]、Yes、または No というソフトキーが表示されます。

オプションの編集に使用できるキーについては、P.4-5 の「値の編集」を参照してください。

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|-----------|---|-------------|
| DHCP サーバ | 電話機の IP アドレスの取得に使用される DHCP (ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル) サーバの IP アドレスを表示します。 | 表示専用 (設定不可) |
| BOOTP サーバ | 電話機の設定が DHCP サーバからではなく BootP (ブートストラップ プロトコル) サーバから取得されたかどうかを表示します。 | 表示専用 (設定不可) |
| MAC アドレス | 電話機の固有な MAC (メディア アクセス制御) アドレスを表示します。 | 表示専用 (設定不可) |
| ホスト名 | 電話機に割り当てられた DHCP サーバの固有なホスト名を表示します。 | 表示専用 (設定不可) |

表 4-2 【ネットワークの設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|-----------|---|--|
| ドメイン名 | 電話機が存在する DNS（ドメイン ネーム システム）の名前を表示します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【ネットワークの設定】のオプションをロック解除します。 2. 【DHCP を使う】オプションを No に設定します。 3. ドメイン名オプションまでスクロールし、【編集】ソフトキーを押して、新しいドメイン名を入力します。 4. 【確認】ソフトキーを押して、【保存】ソフトキーを押します。 |
| IP アドレス | <p>電話機の IP（インターネット プロトコル）アドレスを表示します。</p> <p>このオプションを使用して IP アドレスを割り当てる場合は、サブネット マスクとデフォルト ルータも割り当てる必要があります。表中の【サブネットマスク】オプションと【デフォルトルータ】オプションを参照してください。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【ネットワークの設定】のオプションをロック解除します。 2. 【DHCP を使う】オプションを No に設定します。 3. 【IP アドレス】オプションまでスクロールし、【編集】ソフトキーを押して、新しい IP アドレスを入力します。 4. 【確認】ソフトキーを押して、【保存】ソフトキーを押します。 |
| サブネット マスク | 電話機で使用されるサブネット マスクを表示します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【ネットワークの設定】のオプションをロック解除します。 2. 【DHCP を使う】オプションを No に設定します。 3. サブネット マスク オプションまでスクロールし、【編集】ソフトキーを押して、新しいサブネット マスクを入力します。 4. 【確認】ソフトキーを押して、【保存】ソフトキーを押します。 |

表 4-2 【ネットワークの設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|------------|--|---|
| TFTP サーバ 1 | <p>電話機で使用されるプライマリ TFTP（トリビアル ファイル転送プロトコル）サーバを表示します。デフォルトでは、このサーバは CiscoCM1 です。ネットワークで DHCP を使用していない場合、このデフォルトサーバを変更するには、[TFTP サーバ 1] オプションを使用する必要があります。</p> <p>[代替 TFTP] オプションを Yes に設定した場合、[TFTP サーバ 1] オプションには 0 以外の値を入力する必要があります。</p> <p>プライマリ TFTP サーバもバックアップ TFTP サーバも、電話機の CTL ファイルに記述されていない場合は、[TFTP サーバ 1] オプションの変更内容を保存する前に、CTL ファイルをロック解除する必要があります。この場合、[TFTP サーバ 1] オプションへの変更を保存すると、CTL ファイルは削除されます。</p> <p>CTL ファイルの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。CTL ファイルのロック解除については、P.7-3 の「セキュリティ設定画面」を参照してください。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要に応じて、CTL ファイルのロックを解除します。 2. DHCP が有効な場合、[代替 TFTP] オプションを Yes に設定します。 3. [TFTP サーバ 1] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい TFTP サーバの IP アドレスを入力します。 4. [確認] ソフトキーを押して、[保存] ソフトキーを押します。 |

表 4-2 【ネットワークの設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|---|---|--|
| TFTP サーバ 2 | <p>プライマリ TFTP サーバが使用できないときに電話機で使用されるオプションのバックアップ TFTP サーバを表示します。</p> <p>プライマリ TFTP サーバもバックアップ TFTP サーバも、電話機の CTL ファイルに記述されていない場合は、[TFTP サーバ 2] オプションの変更内容を保存する前に、CTL ファイルをロック解除する必要があります。この場合、[TFTP サーバ 2] オプションへの変更を保存すると、CTL ファイルは削除されます。</p> <p>CTL ファイルの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。CTL ファイルのロック解除については、P.7-3 の「セキュリティ設定画面」を参照してください。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要に応じて、CTL ファイルのロックを解除します。 2. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 3. TFTP サーバ 1 の IP アドレスを入力します。 4. [TFTP サーバ 2] オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しいバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを入力します。 5. [確認] ソフトキーを押して、[保存] ソフトキーを押します。 |
| デフォルト ルータ 1 デフォルト ルータ 2 デフォルト ルータ 3 デフォルト ルータ 4 デフォルト ルータ 5 | <p>電話機で使用されるデフォルト ルータ（デフォルト ルータ 1）およびオプションのバックアップ ルータ（デフォルト ルータ 2 ～ デフォルト ルータ 5）を表示します。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 2. [DHCP を使う] オプションを No に設定します。 3. 目的のデフォルト ルータ オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しいルータの IP アドレスを入力します。 4. [確認] ソフトキーを押します。 5. 必要に応じてステップ 3 ～ 4 を繰り返して、バックアップ ルータを割り当てます。 6. [保存] ソフトキーを押します。 |

表 4-2 【ネットワークの設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|---|---|--|
| DNS サーバ 1 DNS サーバ 2 DNS サーバ 3 DNS サーバ 4 DNS サーバ 5 | 電話機で使用されるプライマリ DNS（ドメインネームシステム）サーバ（DNS サーバ 1）およびオプションのバックアップ DNS サーバ（DNS サーバ 2～DNS サーバ 5）を表示します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【ネットワークの設定】のオプションをロック解除します。 2. 【DHCP を使う】オプションを No に設定します。 3. 目的の DNS サーバ オプションまでスクロールし、【編集】ソフトキーを押して、新しい DNS サーバの IP アドレスを入力します。 4. 【確認】ソフトキーを押します。 5. 必要に応じてステップ 3～4 を繰り返し、バックアップ DNS サーバを割り当てます。 6. 【保存】ソフトキーを押します。 |
| Operational VLAN ID | <p>Cisco Catalyst スイッチ上で設定され、電話機がメンバとして含まれる補助 VLAN（バーチャル LAN）を表示します。</p> <p>電話機で補助 VLAN が受信されていない場合、このオプションには管理 VLAN が設定されます。</p> <p>補助 VLAN も管理 VLAN も設定されていない場合、このオプションは空白です。</p> | 電話機の Operational VLAN ID は、接続先のスイッチからシスコ検出プロトコル（CDP）を介して取得されます。VLAN ID を手動で割り当てるには、Admin. VLAN ID オプションを使用します。 |

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|----------------|---|--|
| Admin. VLAN ID | <p>電話機がメンバとして含まれる補助 VLAN を表示します。</p> <p>電話機が補助 VLAN をスイッチから受信しない場合にのみ使用されます。スイッチから取得している場合、このオプションは無視されます。</p> <p>Operational VLAN ID オプションによって指定されている値を上書きします。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 2. Admin. VLAN ID オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい管理 VLAN 設定を入力します。 3. [確認] ソフトキーを押して、[保存] ソフトキーを押します。 |
| DHCP を使う | 電話機で DHCP が使用されているかどうかを表示します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 2. [DHCP を使う] オプションまでスクロールします。DHCP を無効にするには No ソフトキーを押し、DHCP を有効にするには Yes ソフトキーを押します。 3. [保存] ソフトキーを押します。 |
| DHCP アドレスを解放する | DHCP で割り当てられた IP アドレスを解放します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 2. [DHCPアドレスを解放する] オプションまでスクロールします。DHCP で割り当てられた IP アドレスを解放するには Yes ソフトキーを押し、この IP アドレスを解放しない場合は No ソフトキーを押します。 3. [保存] ソフトキーを押します。 |

表 4-2 【ネットワークの設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|----------|---|--|
| 代替 TFTP | 電話機で代替 TFTP サーバを使用しているかどうかを表示します。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【ネットワークの設定】のオプションをロック解除します。 2. 【代替 TFTP】オプションまでスクロールします。電話機で代替 TFTP サーバを使用する場合は Yes ソフトキーを押します。使用しない場合は No ソフトキーを押します。 3. 【保存】ソフトキーを押します。 |
| SW ポート設定 | <p>ネットワークポート(7961G および 7941G では 10/100 SW というラベル、7961G-GE および 7941G-GE では 10/100/100 SW というラベル) の速度および二重方式。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエーション • 10 Half (10-BaseT/ 半二重) • 10 Full (10-BaseT/ 全二重) • 100 Half (100-BaseT/ 半二重) • 100 Full (100-BaseT/ 全二重) • 1000 Full (1000-BaseT/ 全二重) <p>電話機がスイッチに接続されている場合、スイッチのポートは電話機と同じ速度および全二重 / 半二重の設定にします。またはいずれも自動ネゴシエーションに設定します。</p> <p>このオプションの設定を変更する場合、【PC ポート設定】オプションも同じ設定に変更する必要があります。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 【ネットワークの設定】のオプションをロック解除します。 2. 【SW ポート設定】オプションまでスクロールし、【編集】ソフトキーを押します。 3. 選択する設定までスクロールし、【選択】ソフトキーを押します。 4. 【保存】ソフトキーを押します。 |

表 4-2 [ネットワークの設定] メニューのオプション (続き)

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|----------|--|---|
| PC ポート設定 | <p>アクセス ポート (7961G および 7941G では 10/100 PC というラベル、7961G-GE および 7941G-GE では 10/100/100 PC というラベル) の速度および二重方式。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエーション • 10 Half (10-BaseT/ 半二重) • 10 Full (10-BaseT/ 全二重) • 100 Half (100-BaseT/ 半二重) • 100 Full (100-BaseT/ 全二重) • 1000 Full (1000-BaseT/ 全二重) <p>電話機がスイッチに接続されている場合、スイッチのポートは電話機と同じ速度および全二重/半二重の設定にします。またはいずれも自動ネゴシエーションに設定します。</p> <p>このオプションの設定を変更する場合、[SW ポート設定] オプションも同じ設定に変更する必要があります。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 2. [PC ポート設定] のオプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押します。 3. 選択する設定までスクロールし、[選択] ソフトキーを押します。 4. [保存] ソフトキーを押します。 |
| PC VLAN | <p>電話機が、シスコ製以外のスイッチと良好に連携できるようにします。電話機のアクセス ポートから PC に伝送されるパケットの 802.1P/Q タグを削除します。</p> <p>このオプションを使用する前に、Admin. VLAN ID を設定する必要があります。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. [ネットワークの設定] のオプションをロック解除します。 2. Admin. VLAN ID が設定されていることを確認します (この表の Admin. VLAN ID を参照)。 3. PC VLAN オプションまでスクロールし、[編集] ソフトキーを押して、新しい PC VLAN 設定を入力します。 4. [確認] ソフトキーを押して、[保存] ソフトキーを押します。 |

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [オプションのロックとロック解除 \(P.4-4\)](#)
- [値の編集 \(P.4-5\)](#)
- [電話機から設定可能なオプションの概要 \(P.4-6\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)

デバイス設定メニュー

[デバイス設定] メニューには、電話機の設定ファイルで指定されているさまざまな設定値を表示するための 12 個のサブメニューが用意されています（電話機は、設定ファイルを TFTP サーバからダウンロードします）。サブメニューは次のとおりです。

- [CallManager の設定メニュー \(P.4-17\)](#)
- [SIP の設定メニュー \(P.4-19\)](#)
- [コールの設定メニュー \(P.4-23\)](#)
- [HTTP の設定メニュー \(P.4-24\)](#)
- [ロケールの設定メニュー \(P.4-26\)](#)
- [UI の設定メニュー \(P.4-28\)](#)
- [メディアの設定メニュー \(P.4-29\)](#)
- [イーサネットの設定メニュー \(P.4-30\)](#)
- [セキュリティ設定メニュー \(P.4-31\)](#)
- [QoS の設定メニュー \(P.4-33\)](#)
- [ネットワークの設定 \(P.4-33\)](#)

[デバイス設定] メニューの表示方法については、[P.4-3](#) の「[設定メニューの表示](#)」を参照してください。

CallManager の設定メニュー

[CallManager の設定] メニューには、CallManager 1、CallManager 2、CallManager 3、CallManager 4、CallManager 5 のオプションが含まれています。これらのオプションは、電話機からのコールを処理する Cisco Unified CallManager サーバを優先順位の順番に表示します。

これらのオプションを変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。

利用可能な Cisco Unified CallManager サーバについては、[CallManager の設定] メニューのオプションを選択すると、Cisco Unified CallManager サーバの IP アドレスまたは名前と次の状態のいずれかが表示されます。

- アクティブ：電話機が現在コール処理サービスを受けている Cisco Unified CallManager サーバ。
- スタンバイ：現在のサーバがダウンした場合に、電話機が切り替える Cisco Unified CallManager サーバ。
- ブランク：この Cisco Unified CallManager サーバへの接続は現在ありません。

このオプションには、次の指定またはオプションが 1 つ以上含まれる場合があります。

- SRST 指定：Cisco Unified CallManager の限定機能セットを提供できる Survivable Remote Site Telephony (SRST) ルータの指定を示しています。他のすべての Cisco Unified CallManager サーバが到達不能になった場合に、このルータがコール処理の制御を行います。SRST の Cisco Unified CallManager は、アクティブな状態であっても、常にサーバリストの最後に表示されます。
SRST ルータ アドレスは、Cisco Unified CallManager の管理ページの [SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ページ ([システム] > SRST の順に選択) で設定します。SRST リファレンスは、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ページ ([システム] > [デバイスプール] の順に選択) で設定します。
- TFTP 指定：設定ファイルに記述されている Cisco Unified CallManager に電話機が登録できないため、代わりに TFTP サーバに登録されたことを示しています。
- 認証アイコン：盾  として表示され、Cisco Unified CallManager への接続が認証されていることを示しています。認証の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
- 暗号化アイコン：鍵  として表示され、Cisco Unified CallManager への接続が認証および暗号化されていることを示しています。認証および暗号化の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。

SIP の設定メニュー

[SIP の設定] メニューには、次のサブメニューがあります。

- [SIP の全般的な設定メニュー \(P.4-19\)](#)
- [回線の設定メニュー \(P.4-22\)](#)

SIP の全般的な設定メニュー

[SIP の全般的な設定] メニューには、電話機で設定可能な SIP パラメータに関する情報が表示されます。表 4-3 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-3 [SIP の全般的な設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|---------------|--|--|
| 優先する Codec | コールの開始時に使用されるコーデックを表示します。この値は常に none に設定されます。 | 表示専用 (設定不可) |
| アウトオブバンド DTMF | アウトオブバンド シグナリングの設定を表示します (ゲートウェイの IP 側でのトーン検出用)。Cisco Unified SIP IP Phone は、AVT トーン方式を使用するアウトオブバンド シグナリングをサポートしています。この値は常に avt に設定されます。 | 表示専用 (設定不可) |
| プロキシで登録 | 初期化時に電話機をプロキシ サーバに登録する必要があるかどうかを表示します。この値は常に true に設定されます。 | 表示専用 (設定不可) |
| 登録期限切れ | 登録要求が期限切れになるまでの時間 (秒数) を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 電話ラベル | 電話機の LCD の右上にある状況表示行に示されるテキストを表示します。このテキストは、エンドユーザの表示専用で、発信者 ID やメッセージングには影響を及ぼしません。この値は常に null に設定されます。 | 表示専用 (設定不可) |

表 4-3 【SIP の全般的な設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|---------------|--|--|
| VAD の有効化 | Voice Activation Detection (VAD) が有効かどうかを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 開始メディアポート | メディアの Real-Time Transport Protocol (RTP; リアルタイム転送プロトコル) 範囲の始まりを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 終了メディアポート | メディアのリアルタイム転送プロトコル (RTP) 範囲の終わりを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| バックアッププロキシ | バックアップ プロキシ サーバまたはバックアップ プロキシ ゲートウェイの IP アドレスを表示します。この値は常に USECALLMANAGER に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| バックアッププロキシポート | バックアップ プロキシ サーバまたはバックアップ プロキシ ゲートウェイのポート番号を表示します。この値は常に 5060 に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| 緊急プロキシ | 緊急プロキシ サーバまたは緊急プロキシゲートウェイの IP アドレスを表示します。この値は常に USECALLMANAGER に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| 緊急プロキシポート | 緊急プロキシ サーバまたは緊急プロキシゲートウェイのポート番号を表示します。この値は常に 5060 に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| 発信プロキシ | 発信プロキシ サーバの IP アドレスを表示します。この値は常に USECALLMANAGER に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| 発信プロキシポート | 発信プロキシ サーバのポート番号を表示します。この値は常に 5060 に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |

表 4-3 【SIP の全般的な設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|----------|---|--|
| NAT 有効 | Network Address Translation (NAT; ネットワークアドレス変換) が有効かどうかを表示します。この値は常に false に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| NAT アドレス | NAT サーバまたはファイアウォール サーバの WAN IP アドレスを表示します。この値は常に null に設定されます。 | 表示専用（設定不可） |
| コールの統計 | 電話機でコールの統計が有効かどうかを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)
- [SIP プロトコルの概要 \(P.1-9\)](#)

■ デバイス設定メニュー

回線の設定メニュー

[回線の設定] メニューには、SIP 電話機の回線に設定できるパラメータに関連する情報が表示されます。表 4-4 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-4 [回線の設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|----------|---|--|
| 名前 | 登録時に回線が使用する番号を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| ショート名 | 回線に設定されているショート名を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 認証名 | 初期化時にコール制御サーバによって登録が要求される場合、電話機が認証に使用する名前を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 表示名 | 電話機が発信者 ID の表示に使用する ID を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| プロキシアドレス | 電話機が使用するプロキシサーバの IP アドレスを表示します。この値は常に USECALLMANAGER に設定されます。 | 表示専用 (設定不可) |
| プロキシポート | 電話機が使用するプロキシサーバのポート番号を表示します。この値は常に 5060 に設定されます。 | 表示専用 (設定不可) |
| シェアライン | 回線が共有回線の一部であるか (Yes) 一部でないか (No) を表示します。 | 表示専用 (設定不可) |

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)
- [SIP プロトコルの概要 \(P.1-9\)](#)

コールの設定メニュー

[コールの設定] メニューには、電話機のコールプリファレンスの設定に関連する設定値が表示されます。表 4-5 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-5 [コールの設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|--------------|---|--|
| サイレント | 電話機でサイレント (DND) が有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。Cisco Unified CallManager で、電話機からこのオプションを変更することが許可されている場合は、電話機からこのオプションを変更することもできます。 |
| 発信者 ID ブロック | 電話機で発信者 ID ブロックが有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 匿名コールブロック | 電話機で匿名コールブロックが有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| コール待機の設定 | 各回線でコール待機が有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示すサブメニューを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| コール保留時の呼出音 | 電話機でコール保留時の呼び出し音機能が有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| スタッタメッセージ待機 | 電話機でスタッタメッセージ待機が有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| コールログ BLF 有効 | 電話機でコールログの BLF が有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

表 4-5 [コールの設定] メニューのオプション (続き)

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|---------|---|--|
| 自動応答の設定 | 各回線で自動応答が有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示すサブメニューを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 短縮ダイヤル | 電話機で使用できる回線を示すサブメニューを表示します。回線を選択すると、その回線に割り当てられている短縮ダイヤルのラベルと番号が表示されます。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)
- [SIP プロトコルの概要 \(P.1-9\)](#)

HTTP の設定メニュー

[HTTP の設定] メニューは、電話機で多様な情報の取得元となるサーバの URL を表示します。このメニューには、電話機のアイドル時の表示に関する情報も表示されます。

表 4-6 は、[HTTP の設定] メニューのオプションについて説明しています。

表 4-6 [HTTP の設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|------------|---|--|
| ディレクトリ URL | 電話機でディレクトリ情報の取得元となるサーバの URL を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| サービス URL | 電話機で Cisco Unified IP Phone サービスの取得元となるサーバの URL を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

表 4-6 【HTTP の設定】メニューのオプション（続き）

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|---------------|---|--|
| メッセージ URL | 電話機でメッセージ サービスの取得元となるサーバの URL を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 情報 URL | 電話機に表示されるヘルプ テキストの URL を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 認証 URL | 電話機の Web サーバに対して行った要求を確認するために、電話機で使用される URL を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| プロキシ サーバの URL | 電話機の HTTP クライアントに代わってローカルでないホストアドレスに HTTP 要求を行い、ローカルでないホストからの応答を電話機の HTTP クライアントに提供するプロキシサーバの URL です。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| アイドル URL | [URL のアイドル時間] オプションで指定した時間内に電話機の使用がなかった場合に表示される XML サービスの URL を表示します。たとえば、[アイドル URL] オプションと [URL のアイドル時間] オプションを使用して、電話機が 5 分間使用されなかった場合に、LCD スクリーンに株価情報やカレンダーを表示することができます。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| URL のアイドル時間 | [アイドル URL] オプションで指定した XML サービスが起動するまでに、電話機が使用されずメニューを開かなかつた時間（秒数）を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

ロケールの設定メニュー

[ロケールの設定] メニューには、電話機が使用するユーザ ロケールとネットワーク ロケールに関する情報が表示されます。表 4-7 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-7 [ロケールの設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|-----------------|--|--|
| ユーザ ロケール | 電話機のユーザに関連付けられたユーザ ロケールを表示します。ユーザ ロケールは、言語、フォント、日時の表示形式、英数字のキーボードテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| ユーザ ロケールバージョン | 電話機にロードされたユーザ ロケールのバージョンを表示します。 | 表示専用 (設定不可) |
| ユーザ ロケール文字セット | ユーザ ロケールに対応して電話機が使用する文字セットを表示します。 | 表示専用 (設定不可) |
| ネットワークロケール | 電話機のユーザに関連付けられたネットワーク ロケールを表示します。ネットワーク ロケールは、電話機で使用されるトーンや断続周期の定義など、特定の場所にある電話機をサポートするための一連の詳細情報を識別します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| ネットワークロケールバージョン | 電話機にロードされたネットワーク ロケールのバージョンを表示します。 | 表示専用 (設定不可) |
| NTP の設定 | NTP サーバと NTP モードの設定に関する情報を示すメニューを表示します。詳細については、P.4-27 の「NTP の設定メニュー」を参照してください。 | — |

NTP の設定メニュー

[NTP の設定] メニューには、電話機が使用する NTP サーバと NTP モードの設定に関する情報が表示されます。表 4-8 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-8 [NTP の設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|-----------|--|--|
| NTP サーバ 1 | プライマリ NTP サーバの IP アドレスを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| NTP サーバ 2 | セカンダリ (バックアップ) NTP サーバの IP アドレスを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| NTP モード 1 | プライマリ サーバのモードを表示します。サポートされているモードは、[ディレクテッドブロードキャスト] および [ユニキャスト] です。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| NTP モード 2 | セカンダリ サーバのモードを表示します。サポートされているモードは、[ディレクテッドブロードキャスト] および [ユニキャスト] です。 | 表示専用 (設定不可) |

UI の設定メニュー

[UI の設定] メニューには、電話機のユーザ インターフェイス オプションに関連する情報が表示されます。表 4-9 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-9 [UI の設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|--------------|--|--|
| 自動回線選択を使う | 電話機で、すべての回線における着信コールにコールのフォーカスが移るようにするかどうかを表示します。このオプションが No (無効) に設定されている場合、電話機はコールのフォーカスを使用中の回線上の着信コールに移します。このオプションが Yes (有効) に設定されている場合、電話機はコールのフォーカスを最新の着信コールのある回線に移します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| コール リストの BLF | コールリストの Busy Lamp Field (BLF; ビジーランプ フィールド) が有効かどうかを示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

メディアの設定メニュー

[メディアの設定] メニューには、ヘッドセット、スピーカフォン、およびビデオ機能が電話機で有効になっているかどうかが表示されます。表 4-10 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-10 [メディアの設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|-----------|---|--|
| ヘッドセットを使う | ヘッドセット ボタンを電話機で有効にするかどうかを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| スピーカを使う | スピーカフォンを電話機で有効にするかどうかを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| ビデオ機能を使う | 適切な機器が搭載されたコンピュータに電話機を接続した際に、ビデオ コールに参加できるかどうかを指定します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

イーサネットの設定メニュー

[イーサネットの設定] メニューには、転送の遅延および PC ポートへのスパンが電話機で有効になっているかどうかが表示されます。表 4-11 は、このメニューのオプションについて説明しています。

表 4-11 [イーサネットの設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|-------------|--|--|
| 転送の遅延 | <p>電話機がアクティブになったときに、内蔵スイッチが電話機の PC ポートとスイッチ(SW)ポートの間でパケットの転送を開始するかどうかを示します。</p> <p>このオプションが No に設定されている場合、内蔵スイッチはパケットの転送をすぐに開始します。このオプションが Yes に設定されている場合、内蔵スイッチは 8 秒間待ってから、PC ポートと SW ポートの間でパケットを転送します。</p> | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| PC ポートへのスパン | <p>ネットワーク ポートで送受信されるパケットをアクセス ポートに転送するかどうかを表示します。</p> <p>電話機のトラフィックをモニタする必要があるアプリケーションが、アクセス ポート上で実行されている場合は、このオプションを有効にする必要があります。モニタおよび記録用のアプリケーション（コールセンター環境で一般的に使用される）や、診断に使用されるネットワーク パケット キャプチャ ツールはこのようなアプリケーションの一種です。</p> | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

セキュリティ設定メニュー

[セキュリティ設定] メニューでは、電話機のセキュリティに関する設定を表示します。

電話機の [セキュリティ設定] 画面では、追加のセキュリティ情報を表示し、CTL ファイルのロックを解除することができます。詳細については、[P.7-3 の「セキュリティ設定画面」](#)を参照してください。

表 4-12 は、[セキュリティ設定] メニューのオプションについて説明しています。

表 4-12 [セキュリティ設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|--------------|--|--|
| PC ポートを無効にする | 電話機のアクセス ポートを有効にする (Yes) か無効にする (No) かを表示します。 電話機でビデオをサポートする場合は、有効にする必要があります。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| GARP を使う | 電話機が Gratuitous ARP から MAC アドレスを学習するかどうかを表示します。電話機が Gratuitous ARP を受信する機能を無効にすると、この仕組みを使ってボイスストリームのモニタおよび記録を行うアプリケーションが機能しなくなります。音声のモニタが不要な場合は、このオプションを No (無効) に設定します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

■ デバイス設定メニュー

表 4-12 [セキュリティ設定] メニューのオプション (続き)

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|--------------|---|--|
| ボイス VLAN を使う | ボイス VLAN にアクセスするために、アクセスポートに接続されたデバイスを電話機で使用するかどうかを表示します。このオプションを No (無効) に設定すると、接続された PC でボイス VLAN のデータを送受信することができなくなります。また、電話機によって送信および受信されたデータを PC で受信することもできなくなります。電話機のトラフィックをモニタする必要があるアプリケーションが PC で稼動している場合は、この設定を Yes (有効) にします。モニタおよび記録用のアプリケーション、ネットワークモニタリングソフトウェアはこのようなアプリケーションの一種です。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| Web アクセス可能 | 電話機で Web アクセスが有効になっているか (Yes) 無効になっているか (No) を示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| セキュリティモード | 電話機に設定されているセキュリティモードを表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| ログの表示 | このパラメータは、トラブルシューティングの目的で Cisco TAC によってのみ使用されます。 | 表示専用 (設定不可) |

QoS の設定メニュー

[QoS の設定] メニューは、電話機の Quality Of Service (QoS) に関連する情報を表示します。表 4-13 は、このメニューのオプションを説明しています。

表 4-13 [QoS の設定] メニューのオプション

| オプション | 説明 | 変更方法 |
|------------|--|--|
| 通話制御の DSCP | 通話制御のシグナリングに使用される DSCP IP の分類を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| 設定の DSCP | 電話機の設定を転送するために使用される DSCP IP の分類を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |
| サービスの DSCP | 電話機ベースのサービスに使用される DSCP IP の分類を表示します。 | 変更するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。 |

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [ネットワークの設定メニュー \(P.4-8\)](#)

ネットワークの設定

[ネットワーク設定] メニューには、[ロードサーバ] オプションが含まれています。[ロードサーバ] オプションは、電話機のファームウェアのアップグレードの際、インストール時間を最適化するために使用されます。ロードサーバには、電話機のアップグレードに使用するファームウェアを取得する (TFTP サーバ 1 または TFTP サーバ 2 以外の) 別の TFTP サーバの IP アドレスまたは名前を設定できます。[ロードサーバ] オプションを設定すると、電話機は、ファームウェアアップグレードのために指定されたサーバと通信します。

[ロードサーバ] オプションを設定するには、Cisco Unified CallManager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ページの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] セクションを使用します

関連項目

- [設定メニューの表示 \(P.4-3\)](#)
- [デバイス設定メニュー \(P.4-17\)](#)
- [SIP プロトコルの概要 \(P.1-9\)](#)